

## アイビー世代に 伝わる幻の靴

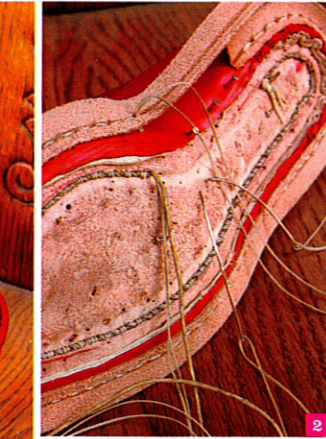
### 梅

田に風変わった靴店があるそう。一日中オツチャンが座って、靴を作っている。靴には値札もないし、営業しているのかさわか知らない。でも、この靴店、大正時代から続く由緒あるお店なんだとか。

オツチャンの正体は、1921年に創業したコバヤシ靴店の四代目店主、福島靖庸さん。実はここ、大阪の道楽者には知られた店なのだ。もともと学校の靴やスケート靴を手がけていた同店。VANがブームを起した60年代、手作りの赤いローファーが大ヒット、一躍有名に。そして「見た目もモダンやけど、履き心地も凄い」ということで、客が絶えない。北は北海道から南は九州まで。エヴィスの山根英彦さんもファンのひとつ。

「一日中履いても疲れない」という秘密は、左右のサイズを変えらること、特徴的な踵の形にある。まずは客が履いてきた靴を参考に、福島さんが足を目で採寸。左右の大きさの微差も靴に反映させる。そして革を靴型に造形する念入りの吊り込み、手作業で踵を丸く吊り込み、湾曲させることで踵を優しくつかむ履き心地が生まれる。限られた職人のみが生み出すハンドソールウエルト製法は反りもよく、クッション性も高い。

「一回履いたら、ココのしか履けんわ」とは、店に来ていた顧客の談。すべてオーダー。価格は10万円。安くはないが、福島さんの修理を受ければ、10年は確実に履ける。お得な気がしますか？



1 革をラスト（足の木型）にかぶせ、形を作っていく吊り込み作業。履き心地や造形美が左右される重要な工程も、間近で見られる。2 製法は好みによって選べる。こちらの靴はハンドソールウエルト製法で作られていく。返りがよくて蒸れにくく、足馴染みもよい高級靴ならではの製法だ。3 コバヤシ靴店の真骨頂が見られるヒールの深い曲線。履く人の踵に合わせて、精巧に形作られる。4 これが1960年代にヒットした伝説のコインローファー。未だに人気は衰えないという。コバの目付けの美しさは嘆息もの。5 店内は福島さんひとり。足にまつわる博覧強記ぶりは、つとに有名。靴好きならずとも、話に引き込まれること請け合いだ



#### SHOP DATA

コバヤシ靴店  
大阪府大阪市北区曽根崎2-10-29  
☎06-6311-7368  
11:00~20:00 (平日・土曜)  
12:00~17:00 (日曜・祝日)  
第3日曜定休  
[www.kobayashi1921.com/](http://www.kobayashi1921.com/)

コバヤシ靴店

# KOBAYASHI

大阪人は履き心地だけじゃダメ。  
パッと華のある靴を好むんですわ